

KTK

NO.102

後援会費郵便振替口座
01070-7-32145
あらぐさ後援会

あらぐさ通信

編集 集 あらぐさ後援会
編集協力 社会福祉法人あらぐさ福祉会
〒617-0813 京都府長岡京市井ノ内広海道42-3
TEL 075-953-9212 FAX 075-953-9215



昨年十月十三日、秋晴れの下で「あらぐさひろば」は
楽しく開催されました

新年あけましておめでとうございます

本年も皆様にとって幸多き一年となりますよう心よりお祈り申し上げます。

昨年はきょうされん全国大会が19年ぶりに京都で開催されました。全国から4,500人以上の参加がありました。障害者福祉に関する知識を深め、日頃の感動や喜び、そして悩みや苦勞を分かち合い、より良い未来を作るための力を蓄えることのできた大会となりました。

今年は、全国大会を通して結ぶことのできたたくさんの方たちとの絆を一層強固なものにし、厳しい情勢の中でも、誰もが分け隔てなく生きていける社会、当たり前暮らしを創り出していく社会の実現をめざして進んでまいりたいと思います。

本年も、どうぞよろしくお願い致します。

障害福祉センターあらぐさ センター長 浜野 亜希子



みんなの力を結集



きょうされん全国大会 in 京都を終えて

きょうされん担当 鞍貫 聡史

きょうされん全国大会 in 京都が9月21日(金)、22日(土)の2日に渡って開催されました。京都での開催は19年ぶりです。2年の準備期間をかけて少しずつ作り上げてきました。当初の目標では、大会の参加人数4000人でしたが、大会当日は障害のある当事者が約2000人をはじめ、大会全体で4700人、ボランティアを含めると5500人の参加となりました。

大会のテーマ

大会のテーマとして、障害のある人達や暮らしに困難をかかえている人達の実態や願いを多くの国民と共有し、「障害者権利条約」に謳われている、だれもが分け隔て無く安心して暮らせる社会に少しでも近づけるようにとあります。そこで障害者権利条約成立に尽力されたドン・マッケイ氏と、マリア・ソリダード氏をお招きし、一部を公開シンポジウムとすることで、関係者を始め、一般の方々にも「障害者権利条約」を身近に感じてもらえたのではと思います。

大会当日

大会当日は、障害のある方の願いや思いを伝える「きぼうの森プロジェクト」で、「もっと給料がほしい」「楽しく旅行がしたい」「この地域でみんなと暮らしたい」という願いを葉っぱに書いて発表をしました。この願いが集まって作られた「みんないっしょ、ずっといっしょ」というテーマソングは大会を通じて様々な場面で大合唱されました。分科会として、家族や職員の学びの場もたくさん設けられました。障害のある方が楽しめるように、ケロボンズがきて盛り上げてくれたり、着物ショーがあったり、吉本新喜劇風の劇があったりと、大盛り上がりでした。

実行委員会活動

大会を作りあげるにあたって、実行委員の呼びかけが始まり、各事業所からは大会を組織していく部員が選出されました。あらかさ福祉会からは、ボランティア組織部の部長に森下さん、交通誘導販売部員に東宮さん、利用者援助部員に鞍貫が出ています。

交通誘導・販売部では、現場の視察に行っ
ては議論を重ね、当日は迷うことなく会場に
来られたという話を聞いています。

販売では、府内の事業所から集められた自
主製品が並べられ、人だかりが出来るほどの
人気でした。

ボランティア組織部では、800人のボランティア
を集めるという目標で、生協をはじめ、大学や高等学
校といった場所に直接説明をしに出向き、当日には目
標の約800人を集めることができました。

利用者援助部では、利用者主体の大会にしようということで、各事業所から利用者実行委員を選出して会議を行ってきました。

あらぐさからはディセンター2の塚上さんが選出され、大会でどんなおもてなしをしたいかの意見を集約したり、報告会を行ったりしています。利用者からは、「舞妓さん呼びたい」「太鼓で迎えたい」「着物を着たい」といった意見が出て、多くの意見が大会に反映されました。

大会参加者の「良い大会だった」「また来たい」という言葉を聞いてみんな大喜びされていました。こうした様々な実行委員が力を集結して大会を成功させたのだと思います。

つながりの力

大会を通して、繋がりというのも多く感じました。大会成功には大きな資金作りも必要だったので、あらぐさでも利用者のみなさんを中心に協賛金運動を行いました。普段よりお世話になっている地域の方々の所へ出向いて、「ご協力お願いします」という利用者さんの言葉に快くご協力していただきました。他にも、あらぐさ創設からお世話になってきた団体にも連絡をすると快くご協力いただけました。改めて、あらぐさが地域の人達と繋がってきたことを再確認することができる大会でもありました。

請願署名活動

12月から国会請願署名活動が始まりました。国の障害者雇用水増し問題の徹底究明や、障害のある方の現状に合わせた障害福祉制度の充実を訴えていきます。大会を通してより強くなった繋がりを糧にして多くの署名を集めていきたいと思っています。

あらぐさ利用者のみなさんの声

大会が終わった後、利用者実行委員の塚上さんが各グループを回って、大会に参加してのアンケートを聞かれました。



「劇を頑張った」
「ケロポンズが楽しかった」



「人が多くて良かった」
「歌が感動した」



「染めの準備ががんばったよ」「京都は新撰組！劇がよかった」「次の愛知大会も応援したい」

「太鼓がかっこよくてよかった」
「また参加したい」



「手拍子して楽しんだ」「感動した」



きょうされん全国大会 大活躍

ツカくんは 35 歳。
お父さんとお母さんと

3 人家族です。あらぐさの仲間に「ツカくん」と呼ばれ、自治会で頑張っています。

京都大会開催の昨年、ツカくんは『きょうされん全国大会』に向け、何度もあらぐさの代表として亀岡市に行き、なかま実行委員として大会準備の会議や歓迎イベントの計画をしてきました。ステージ発表の合同練習も頑張りました。

お母さんは、職員から「本人が代表として全国大会に出たいと言ってはります。」と聞いて、信じられなかったそうです。緊張すると人前ではしゃべれない、ご飯も食べられない、寝られない・・・お母さんは不安で改めて本人に尋ねると「やりたい」という強い意志を確認。補佐する体制もあり「できる」という気持ちになったようで、本人の変化を感じたそうです。今では亀岡の仲間とも友達になりました。



5 才頃のツカくん

おいたち



母の実家近くの第一赤病院で予定日通りに誕生。泣き声が小さく、少し頭囲が大きいので、児童相談所に行くと、聖ヨゼフ整肢園で診てもらおうように勧められました。水頭症と診断され、生後 8 か月から聖ヨゼフに母子入院。ボイタ法の訓練を続けました。2 歳半で歩き始めたので訓練を終了。入院友達ができ、今も交流があります。

福岡へ転居、博多での生活

3 歳頃、お父さんの転勤で伏見から博多に転居しました。共働きだったので近くの保育園に途中入所できました。地域の小中学校では、普通学級と特別学級に通いました。担任の先生や校長先生はいい先生でした。中学 3 年までには水頭症などの症状も固定したので検査は終了しました。

高校は本人の希望で福岡ドーム近くの福岡中央養護学校の高等部に決めました。自主通学制なので、一人でのバス通学。心配で隠れて様子を見ると、苦手の満員バスも福岡ドームのマークを支えに間違えることなく頑張って通っていました。帰宅すると、一人での留守番。近くの図書館や博多どんたくのステージを見に行ったりと話すこともありました。お父さんが休みの時は、野球を見に行ったり、阿蘇山や長崎など家族旅行に出かけたりもしました。お父さんお母さんは京都弁なのに、本人は学校で覚えた博多弁でしゃべっていました。でも、京都に帰ってきたら京都弁になりました。

京都に転居、



向日が丘養護学校での活動

高校 2 年 6 月、また京都に転勤。福岡の高校で相談すると「京都へ行くなら向日が丘へ」と勧められ、長岡京市に転居を決めました。

向日が丘に来てしばらくは、福岡時代のアルバムを見て寂しそうでした。学校に慣れるまで時間が掛かり、引っ越しは本人にとって負担なのだなと思いました。福岡では寄宿舎はなく、向日が丘での 2 週間の体験入舎はとても楽しめたようです。親と離れたことがなかったので親の方が不安でしたが、とても良かったです。

卒業後の進路相談を受け、親子で施設見学に行き、

あらぐさに決めました。

久貝のあらぐさで活動をスタート

入所当時のあらぐさは、場所が分散していましたが、本人に合った久貝の共同作業所に通うことになりました。当時は第七小学校地域に住んでいました。福岡時代のバス通学経験を活かし、家から一文橋のバス停まで歩き、大山崎方面行きの阪急バスに乗り、久貝で降りました。帰りは適当なバスがないので、久貝から阪急長岡天神までバスに乗り、そこから歩いて帰って来ました。



なかま実行委員会での司会担当

久貝では、ビーズでアームバンドを作っていました。ビーズは好きなのに、何か不満がありそうと感じ、本人に聞いてみました。でも、何も言わないので、本人がつけている自由帳を見ると「クッキーがしたい。クッキーがしたい。」と、びっしり書いてありました。そのノートを職員に見せて本人の思いを知ってもらいました。そして、少しだけやってみただけけれど、クッキー作りは難しいとわかり、納得したということがありました。

今では、天候が悪くても、少しぐらい体調が悪くても嫌がらず通所しています。

あらぐさや地域での活動



現在は、あらぐさに通いやすい所に転居したので、毎日徒歩で通所しています。あらぐさでは好きなビーズ、草木染め、シール貼りの仕事をしています。あらぐさの相談支援センター『みちくさ』を利用しています。相談員は本人のことをずっと知っている

人なので相談の日を楽しみにしています。

デイ2やワークの仲間の『太郎さんのお出かけグループ』と一緒に外出先を相談し、月2回ガイヘルの人たちと楽しく出掛けています。あらぐさの1泊旅行も楽しみです。

本人の気持ちや施設の体制により、いろいろとひまわり園の2か所で、短期入所ができるようになりました。もしもの時に、安心できる制度です。

以前、ある歯科で「この人を診るのは難しい」と断られましたが、あらぐさの紹介の安藤歯科では上手に診てもらえるようになりました。

家でのくらし



あらぐさから帰ると、FMの音楽放送を聞きながらのコーヒータイム。ツカくんには、小学校の頃からの楽しみがたくさんあります。毎日日記をつけること、ローソンで毎週『少年ジャンプ』を買うこと、缶コーヒーを買うこと、テレビやラジオの音楽番組を視聴することです。ほとんどの種類があるミニカーで遊ぶこと、読める漢字があり、本や新聞を読むことも好きです。わからないことはお母さんに聞きながら読んでいます。英語にも興味を持っています。

家族とのこと、これからのこと

お父さんは「退職したら犬を飼いたい！」という夢を叶えました。本当はツカくん、犬が苦手ですが、餌をやることを役目にしました。帰宅後、自分のおやつの前に餌をあげています。日曜日には家族で買い物に行ったり、お父さんがいると落ち着いていたり、3人でとても充実した毎日です。

実は、本人から「一人暮らしがしたい！」と言われたことがあります。お母さんが「ご飯はどうするの？」と聞くと、「お弁当買う。」さらに「お掃除はどうするの？」には「……」という返事でした。今は、一人暮らしをしたいとは言わないです。本人は色々なことを、自分で選択し決定ができます。親としては、これからも本人の意思を尊重し、大切にしていきたいと思っています。

(取材：前田幸子 森垣美知子)



カラオケ大会参加



昨年10月31日(火)に行われたエムケイ株式会社様主催の「MKチャリティカラオケ大会」に参加しました。ワークセンターからは希望者を募り、チームを組んで、3組出場しました。

初めての行事ということで緊張…と思いきや、さすがワークさん、歌に合わせた衣装もばっちり決めての出場で、みんな堂々と歌と踊りを披露していました。あらぐさ全体での参加、そしてエムケイ株式会社の方々やプロボウラーの方々も来られていたので、ホールは人で溢れそうなくらいいっぱい、会場は大盛り上がりでした。

大会には審査員もおられ、その結果、ワークからは2組が表彰されることになり、「一等賞」と「盛り上げたで賞」としてトロフィーを2ついただきました。

みんな楽しかったとのことで、「歌えてよかった!」「賞をもらえてうれしい!」と声が挙がっていました。また、今回参加していなかった人からは、「次あったら参加してみたい」と積極的な声もありました。

またチャリティカラオケ大会あったらいいなあとみんなで話しています。

(ワーク 辻)

創 16th ~えがおの手しごと展~

「見つけよう！自分スタイル」～生活雑貨～

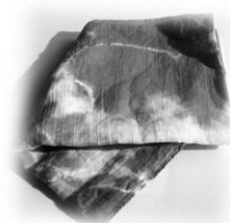
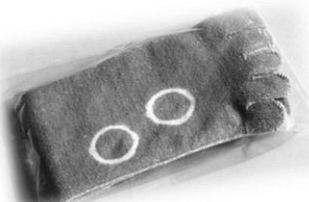


◇長岡京市立産業文化会館

◇2019年 2月2日(土) 正午～午後5時まで
2月3日(日) 午前9時～午後5時
2月4日(月) 午前9時～午後3時



製品紹介



藍染め

Bグループ

Bグループでは、一昨年より小物の藍染めを手がけるようになりました。天然素材である藍は、液の管理にこそ気を遣うものの、常温で染められるため、利用者にとってもヤケドなどの危険がないのが優れた所です。頂き物のハンカチを染める所から始まり、シュシュやヘアゴム、5本指くつした、靴紐、Tシャツと染める対象を広げてきました。

現在は、月曜日に下洗いをして糊を落とし、火曜日に袋に入れた藍液に浸し、外から叩き上げて染色しています。どちらも、野菜の水切り器を使って、楽しく回しながら脱水しています。すすぎ洗いの後は、仕上がり具合を見た利用者（製作者）から、一言感想をもらうのが習わしとなっていて、「イマイチ」「可愛い」「完璧！」など、楽しいコメントを寄せてくれます。

今後、くつしたの注文が一段落したら、ステンシルの枠を使った抜き染めにも挑戦してみようと考えています。（松村）

秋晴れの下「あらぐさひろば」で楽しく交流

昨年10月13日、お天気に恵まれ、近隣の方、支援学校卒業生、多くの関係者など約400名がつどい、「みんなおいでよ～あらぐさひろば」が開催されました。力強い金管楽器や和太鼓演奏、流麗なフラダンス、バザーや模擬店、遊びのコーナー、あらぐさ利用者さんの作品展示など多彩で、12団体のご協力をいただきありがとうございました。福引き大会も盛り上がり、笑顔で楽しく交流できました。



きょうされん第42次国会請願署名・募金へのご協力のお願い

「あたりまえに働き えらべる暮らしを ～障害者権利条約を地域のすみずみに～」というスローガンはあらぐさの理念とも重なる部分があります。全ての人の権利と命が大切にされる社会を目指すため、ご協力をお願いします。

12月7日JR長岡京駅前で署名活動



あらぐさ後援会 加入・募金 ありがとうございます

平成30年8月16日～11月30日 敬称略・順不同

青嶋芳文 赤城博子 天野きみ 荒木満 荒木
まち子 安藤歯科医院安藤純夫 生嵩澄夫 池田
広子 石井憲生 石村和子 伊丹路恵 伊藤勝久
伊藤卓次 今井和子 今井正 上田和美 植田進
上野志保子 江川哲 大城まゆみ 大坪晴美
岡崎伸宏 岡本敦子 特定非営利活動法人乙訓介
護サービス 小野留美子 小野田照代 甲斐幸子
勝山廣美 (株)ゆう建築設計事務所 亀川義昭
川瀬明子 岸陽子 北達美由紀 木村まき子
京都府立高教組向日が丘支援学校分会 金原道雄
草野廣 窪島敏子 黒木サキ子 小池良一 上坂
愛子 後藤真由美 小林美恵子 西條利洋 斉藤
泰樹 坂本憲哉 佐々木和隆 佐々木成子
佐々木久子 四方政則 柴田和泉 生水愛 新免
富美子 杉谷伸夫 高橋久美子 高橋嘉子 滝川
正幸 竹下久美 武山彩子 立山純治 田中大地

田中善久 田中礼子 谷早苗 谷口奈緒子 丹野
かほる 津田恵理子 坪野津由子 銅銀正美
東宮健史 富島ますみ 富永洋子 内藤時子
中田あづさ 中野修 中村智江 中村文子 中村
雄策 中山千恵子 柳楽幸子 西村栄治 西村
秀晴 仁村佳與子 (株)ハウジングステーション
代表取締役山下吉昭 橋本さつき 浜野紘久 林
英夫 原田正雄 平塚洋子 厩神仁美 広瀬美砂
藤井久子 藤本秀延 ベーカリーセルフイーユ
別府哲 細川幸子 前川明雄 前田良子 増田尚
松島朱美 松村誠 丸山彰子 三木孝子 造酒豊
三谷文菜 森清 八木勝光 矢澤治 安井裕之
藪良蔵 山香節子 山口計子 山口武彦 山中
啓三 山本義則 山本恭子 横川安子 渡辺裕子
匿名19名

後援会会員更新がまだお済みでない方よろしくお願ひします



- * 同封の振込用紙をご利用ください (納入済みの方には振込用紙を同封していません)
- * 入金と行き違いになりました際はご容赦ください

1992年6月5日 第3種郵便物承認 (毎月1回25日発行) 2019年1月10日発行
KTK増刊通巻第4834号 発行所 京都障害者団体定期発行物協会
〒602-8143 京都市上京区堀川通丸太町下ル中之町 519 京都府社会福祉会館4階
京都障害者会内 発行人 高谷修 頒価 50円 (購読料は会費に含まれています)

KTK
あらぐさ通信